

『ご挨拶』

『メディポリス指宿』 「がん粒子線治療研究センター」 落成式を迎えるにあたって

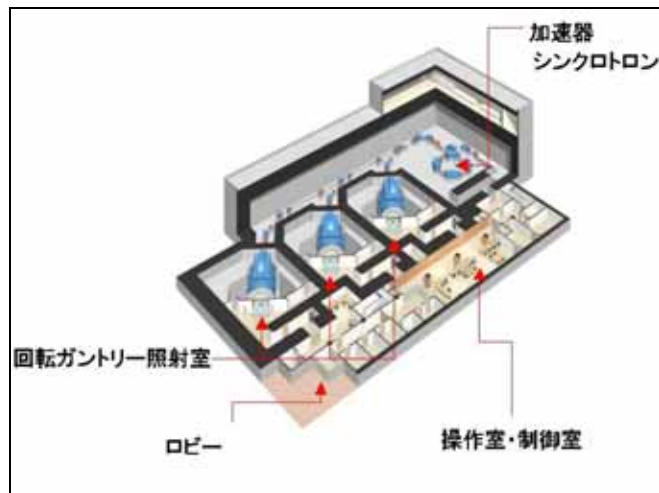
財団法人メディポリス医学研究財団 理事長
永田 良一

『メディポリス指宿』「がん粒子線治療研究センター」の落成式典に、かくも大勢の皆様のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。衷心より厚く御礼申し上げます。また、皆様には、平素より「メディポリス医学研究財団」に絶大なるご支援とご理解を賜り、重ねて御礼申し上げます。



【がん粒子線治療研究センター：2010年3月】

このたび完成しました、「がん粒子線治療研究センター」は、地下1階、地上2階、延べ床面積6,000㎡の建物に、治療室3室を備えた先進医療施設です。同センターは、2007年9月に土地開発造成工事に着手、2008年7月に起工式を挙行し、本格的な建設が始まりました。その後、建屋の建設も順調に進み、2009年7月には粒子線治療装置設置に伴う安全祈願祭が、同年10月には上棟式が執り行われました。本日、ここに落成記念式典を挙行することができましたのも、伊藤鹿児島県知事をはじめ、多くの関係各位のご助力の賜物と改めて感謝申し上げます。



【施設概要図】

ここ『メディポリス指宿』は、もともと年金基金が所有する保養地「グリーンピア指宿」でした。初期投資額230億円を投じて1985年にオープンし、その17年後の2002年に閉鎖されました。その後、競売にかけられましたが、成立せず、行政から再生戦略についてのご相談を受けました。それがそのうち、私に跡地を購入してもらいたいという要請へと変わってきました。相談に乗るだけなら、という軽い気持ちで関わり合っているうちに、今度は買い手として白羽の矢が立てられました。最初は取得するつもりなどなかったのですが、産廃業者が取得に意欲的だとか、オートレース場にする計画が浮上したとか、いろいろな噂話を耳にするようになりました。



【工事前：2006年8月】



【造成工事：2007年9月】



【起工式：2008年7月】



【安全祈願祭：2009年7月】



【上棟式：2009年10月】

2004 年は、ちょうど私が代表を務める株式会社新日本科学が東京証券取引所に上場した年ですが、鹿児島に生まれ、鹿児島に育ててもらった企業として、地元貢献の一助になればと願い、また、新日本科学の事業戦略の一環として跡地の取得を決意しました。同年 4 月に行われた公募入札に参加し、6 億円で落札しました。当時、「安い買い物をしましたね」とおっしゃる方もいました。しかし、再生に向けた改修費用やそれに要した時間と労力を考えると、決して安い買い物ではございませんでした。グリーンピア閉鎖後、すでに 3 年近く経過しており、この間、施設は放置され、草木も伸び放題でした。道路を車が通れるように整備するのも密林を切り開くような状況でした。施設の設備はまったく機能せず、廃墟とみまが見紛うばかりに荒れ果てていました。一方で施設の躯体はかなり頑丈にできており、解体して新しい建物を作り直すのに莫大な費用がかかることがわかりました。結局、既存施設の設備・内装をすべて新たに改修することにし、2005 年夏から施設の改修工事に取り掛かりました。東京ドーム 77 個分に相当する広大な敷地と、そこに息づく自然や既存の施設などを、どのように活用していくのか？この大命題に方向性を見出すために、活用協議会を立ち上げ、鹿児島県、県医師会、金融機関、鹿児島大学、ならびに地元の有識者らと協議を重ね、地域の活性化を含めた様々な検討を行った結果、「医療と健康」をメインテーマに据えた基本方針が策定されました。

そして、新施設の名称は、公募により『メディポリス指宿』と命名されました。「医学」を意味する英語「Medical」と、「都市国家」を意味するギリシャ語「polis」とを組み合わせた造語です。「南九州から世界に向けて“光”を放つ医療」を基本コンセプトとし、医療向上・健康増進に資する施設作りを推進することで、地域社会・地域住民はもとより、広く全人類に貢献していきたいという決意と願いが込められて

います。『メディポリス指宿』構想とは、「医療」と「都市」にちなんだ名称が示すように、従来に類のない総合的な“医療・健康都市”の構築を目指すもので、「高度先進医療」、「予防医学」、「こころのケア」、「トランスレーショナル リサーチ」の 4 つの分野を活動の柱として、医療向上、健康増進というテーマを具現化し、社会的ニーズに広く応えて取り組んでいくことになりました。具体的には「がん粒子線治療研究センター」は、「高度先進医療」分野の中核となり、「附属医院」は、「予防医学」をはじめとして「統合医療」に取り組みます。また、21 世紀高野山医療フォーラムなどと連携し、患者さんの「こころのケア」にも力を注ぎます。さらに、世界初となる乳がんの粒子線治療を推進する「トランスレーショナル リサーチ」も意欲的に推進する、という構想です。それぞれの取り組みが有機的に連動し、シナジー効果を最大限に発揮していけるよう、『メディポリス指宿』構想の扇の要となるべき組織として、「財団法人メディポリス医学研究財団」を設立し、私が理事長に就任いたしました。それが 2006 年 3 月のことでした。

【活用協議会のメンバー】

ご所属	お名前	役職
鹿児島県 特別顧問	伊藤 祐一郎	鹿児島県知事
鹿児島県	吉田 紀子	鹿児島県保健福祉部次長
鹿児島大学	永田 行博	大学長
株式会社京セラ（鹿児島大学）	稲盛 和夫	取締役名誉会長（経営協議会委員）
指宿市	田原迫 要	指宿市長
鹿児島県医師会	米盛 學	会長
株式会社鹿児島銀行	大野 芳雄	取締役頭取
株式会社指宿ロイヤルホテル	有村 佳子	代表取締役社長
株式会社新日本科学	永田 良一	代表取締役社長

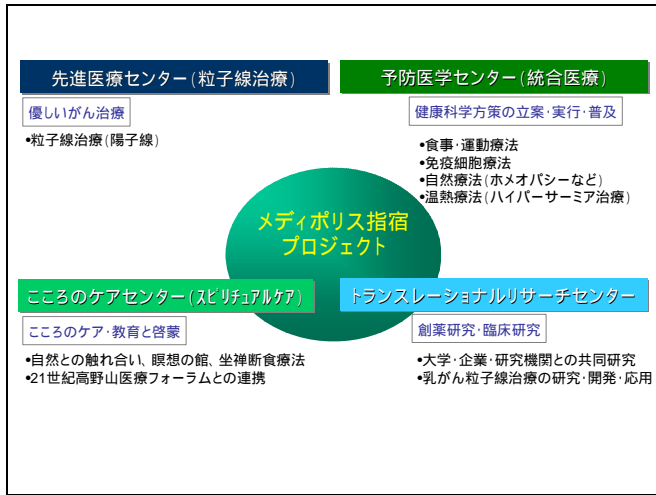
（敬称略、順不同 役職名等は 2004 年 9 月 15 日時点）



【グリーンピア指宿跡地：2004 年】

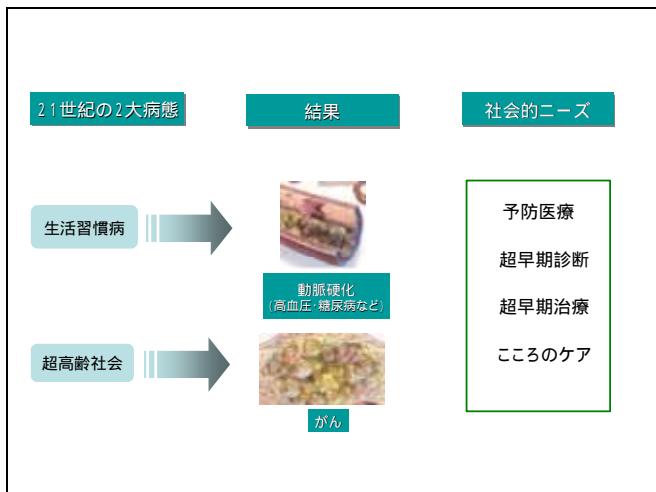


【改修工事：2005 年～2006 年】



【『メディポリス指宿』構想 4 つの柱】

現在、日本人の 3 人に 1 人ががんで死亡しています。2 人に 1 人ががんで亡くなる時代がすぐに到来するでしょう。また、動脈硬化による心疾患や脳血管疾患で亡くなる方も大勢おられます。いずれにせよ人間は、この世に生を受けた限り、間違いなくいずれ死にます。死というものをどう受け止めるか、前向きに受け止めるか、あるいはネガティブに目を背けるか、その姿勢はとても重要であると思います。病や死などの苦を、否定的に捉え、逃げようとしても叶わぬことです。限りある命を、いかに生きるか、生き切るか、ひたすら前向きな姿勢が大切だと思います。生命は有限だからこそ輝くことができるのです。いずれにしても日本人の 60 歳以上の方の約 8 割は、脳血管疾患、心疾患、もしくは悪性新生物(がん)で亡くなります。ということは、これらを予防し、また、罹患しても適切な治療ができれば、さらなる長寿健康社会が実現できるのです。



【社会的背景】

私は、小学校 6 年生のときの作文に、「将来の夢は医者になってがんを治したい」と書きました。しかし、30 年前の医学教育で「がんは不治の病です」と教えられ、がん臨床の道に進むことはしませんでした。30 年後、『メディポリス指宿』プロジェクトに着手した際、粒子線治療という新たながん療法を知りました。「運命的に巡り会ってしまった」と言っても良いでしょう。新日本科学とメディポリス医学研究財団に共通する理念は「人類を苦痛から解放すること」であり、それは私の生き方でもあります。がんを「切らずに治す」という画期的な粒子線治療の存在を知った限りは、どうしても

取り組みたくなりました。ところが事業戦略を立ててみると、粒子線治療施設の建設だけで 108 億円の資金が必要だということがわかりました。すでに宿泊施設の整備などに数十億円投資していますから、さらに 100 億円を超える資金を捻出するとなると大変です。周囲からは反対の声が寄せられました。実は、新日本科学は、上場する前にアメリカや中国などに立て続けに海外進出したために多額の設備投資をしており、上場前には 100 億円の借入金があり、これを私が個人補償していました。金融機関の担当者に「1 億円の生命保険に加入して、100 回死なないと借金を返済できないね」と言ったところ、「いえ、死ぬのは 1 回でいいですよ」などと冗談半分の会話を交わしていたものです。その後、株式上場で資金調達ができ、上場企業ということで個人補償の対象からはずれ、ようやく個人補償というしがらみ 柵 から解放されました。しかし、粒子線治療施設を建設するとなると、また多額の負債を個人で負わなくてはなりません。当然、家族も会社の役員もみな反対でした。私自身もおおいに悩み、迷いました。迷いに迷って、迷い続けました。しかし、迷いの期限が 2005 年 4 月 21 日でした。この日に、鹿児島県の医師会館で粒子線治療施設の設置について、その取り組みを公表することになっていました。そして、その明け方に不思議な夢を見たのです。その夢は、「人の命は、皆つながっている。時間や空間を越えて、先祖も子孫も皆、自分の命とつながっている。だから、自分の命がなくなっても、誰かがそれを引き継ぐから、何も心配することはない。」というものでした。すなわち、自分の存在価値は他人の幸せの中に自分の幸せを感じることで、それが絶対的幸せであるということ、粒子線治療施設は多くのがんに苦しむ患者さんと、そのご家族が病苦から解放され福音をもたらす施設なのだから、ここで私が一歩を踏み出せば何万人という人の命を助けることができるということを、私のこころに呼びかけてきたのです。この夢を見て、早朝に晴れ晴れとした気分が目覚めました。とにかく迷いがなくなって、前向きな気持ちで医師会での公表に臨みました。しかし、公表後、皆さんに絶賛されるかと思っていたのですが、大方の意見は「そんな夢のような施設が鹿児島で実現できるはずがない」という冷やかなものでした。正直に申しあげてショックでした。それから、最初の 2 年ほどは世間の風当たりも厳しく、「永田さんは夢でも見てるんじゃないか?」とか「構想だけ打ち立てても、どうせ頓挫するだろう」という声があふんできました。



【2005 年 4 月 21 日：鹿児島県医師会館】

2007年になりますと粒子線センターの設計図が固まり、入札で建設業者が決まりました。そして、その年の秋に土木工事に着工しました。しかし、まだ世間は半信半疑でした。2008年の夏には建築工事を着工しました。それから、徐々に粒子線センターはその姿を現わし始めました。2009年の春頃になると、実現不可能と言っていた多くの人たちからも、「永田さんは実現するのではないだろうか?」という声が増えてきました。その後、建屋もほぼ完成し、治療装置の搬入・設置も済んだころには、その様子を見て、粒子線センターの建設に懐疑的だった人からも「もし自分ががんになったら、待たずに治して欲しい」という要望が寄せられるようになりました。人間は、目で見える形で示さなければ信用しないのだということをつくづく実感した次第です。もちろん、懐疑的な方たちばかりではありませんでした。構想を発表した当初から支援してくれた方々も少なからずいました。「九州にがんと生活習慣病、先進医療や予防やこころの治療を行う健康・医療都市を作ろう」という私の想いに賛同し、有形無形の協力を寄せていただいた多くの方々を支えられて『メディアポリス指宿』構想は、完成形に近づきつつあります。

【産学官代表者会議：2008年2月20日】



【シンジケートローン調印式：2009年4月23日】



【概要】

(1) 契約締結日	2009年4月23日(木)
(2) 融資金額	40億円
(3) 借入期間	22年
(4) 参加金融機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社鹿児島銀行 ・ 株式会社日本政策投資銀行 ・ 株式会社商工組合中央金庫 ・ 株式会社肥後銀行 ・ 株式会社南日本銀行 ・ 株式会社宮崎太陽銀行 ・ 株式会社西日本シティ銀行



宿泊施設 天珠の館



【天珠の館】



【天珠石】

旧「グリーンピア指宿」の宿泊施設の全面改修工事が終了したのは、2007年6月でした。宿泊施設は、「天珠の館」として新装開業しました。この施設名になっている「天珠」とは、

古来よりチベットに伝わる“神聖なる靈石”のことで、お守りのルーツとも言われています。身につけると邪悪を払い幸運を呼ぶとされています。訪れる方々に幸せになっていただきたい、という願いを込めて「天珠の館」と命名しました。雄大な自然に囲まれた閑静な空間に、86室の客室と各種の温泉スパ施設、スポーツ施設などを配した「天珠の館」は、癒しとやすらぎ、寛ぎと和^{なご}みをひたすら追求した宿泊施設としてお客様に愛用され、昨年度は、5万人を越える来場者がありました。



【ガントリー：2009年10月26日公開】



【メインホール】



【スイートルーム】



【洋室】



【和洋室】



【和室】

「天珠の館」の源泉の泉質は、鉄分に富むナトリウム・カルシウム塩化物泉で、汗の蒸発を防ぐため、別名『火の湯』と呼ばれるほど保温効果が高く、神経痛や関節痛、皮膚炎、慢性婦人病などに効果があるといわれています。また、硫酸イオンも適度に含まれており、入浴中の酸素吸収を促進させ、快適でリラックスした入浴をお楽しみいただけます。「天珠の館」は、敷地内にある3箇所の源泉から湧出する高温の温泉を使用しており、豊富な湯量を誇っています。また、山手高台に立地する源泉であるため、塩分濃度が低く、透明度が高いことが特徴です。とうとうと湧き出る究極の温泉を存分にご堪能いただけるよう、館内外にさまざまなスパ施設をご用意しました。展望露天風呂は、眼下に指宿市街と錦江湾、そして彼方に大隅半島を一望できるロケーションで、ダイナミックな景観を寝風呂でお楽しみいただけます。

セラミック・スパは、進化した砂蒸し温泉とも言えます。宮崎県延岡市北方町山麓から採石された大和の光石を、約1,200度の高温で焼成しセラミックボール状に加工したビーズを浴槽に敷き詰め、その中に身体を埋めて入浴します。血液の循環が促進され、汗と一緒に体内の老廃物が排出されるというデトックス効果の他にも、ストレス緩和、自律神経調整効果など精神面での効能や粒状の光石によるマッサージ効果なども期待されます。

岩盤浴は、温泉熱で適度に熱した岩盤に横になり、身体の芯まで温めるというお湯に浸からない入浴方法です。新陳代謝が活発になり、発汗を促すとともに老廃物も体外に排出されます。内部体温をじっくりと上昇させることで、免疫力が高まり内臓の賦活化にもつながると言われています。水分補給と休憩をはさんで、十分に発汗するまで何度か繰り返し入浴すると効果が高まります。



【個室岩盤浴】



【露天風呂】

また、屋外には個室タイプの5つの露天風呂を設えました。緑濃い森の中の貸切露天風呂は、まるで中空に浮かぶ箱舟のようです。浴槽は、松風呂と岩風呂の2タイプを用意しました。かぐわしい木の香りと柔らかな木洩れ日に包まれて、心身ともにリラックスした贅沢なひと時をお過ごしいただけます。



【Ascension (アセンション)】

英和辞書を引くと「Ascension(アセンション)」の意味は、「上昇、登ること、(天体が地平線上へ)昇ること」とあります。まさに、天にも昇るような不思議な浮遊感を体感できる「アセンション」という名を冠した装置が「天珠の館」にあります。「天珠の館」のメインホールに据えられたこの装置の内部は、直径約5mの円筒形の空間で、周囲に配された2万灯のLED(発光ダイオード)の明滅が、上下に設置された鏡に投影され、際限なく続く光の映像と、空間内を流れる心地良い音楽がこころを和ませるという「視覚」と「聴覚」とに包み込むような優しい効果を及ぼす装置です。この空間に四肢の力を抜いて横たわり、光と音が奏でるシンフォニーに身を委ねていると、忘我の境地に誘われます。「擬似幽体離脱体験を味わえる」とおっしゃる方もいます。「Ascension」は、コンピュータ・グラフィック界の第一人者である平山のりひろ氏が制作し、「天珠の館」に設置されたものが世界で唯一無二の存在です。皆様にもぜひ一度、よそでは味わえない



【展望大浴場】



【セラミック・スパ】

幻想的な音と光の癒しの空間を体験していただきたいと思
います。

「天珠の館」は、広大な敷地を活かし、森林遊歩道、体育
館、プール、テニスコート、グラウンド・ゴルフ場など、大
規模な運動施設を完備しているほか、施設内の自家菜園で農
菜を用いずに育てた新鮮な野菜を宿泊施設利用者への食事
に提供するなど、健康をテーマにし、健康増進をサポートす
る施設運営を行っています。



【森林遊歩道】



【体育館】



【テニスコート】



【屋内プール】



【グラウンド・ゴルフ場】



【自家菜園】

メディポリス医学研究財団 附属病院



メディポリス医学研究財団附属病院は、2007年6月に開
院しました。その基本理念は、次の3点です。

1. 自己治癒力を癒しの原点に置き、そのプロセスをサポートする
2. からだ、こころ、いのちを統合する統合医療の実践
3. ホリスティック(全人的)な人間観と医学観を持ち合わせ
た医療従事者の育成

WHO(世界保健機関)によると、健康とは、「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない」状態であると定義されます。つまり、個々の存在のこころと身体が健やかであれば良いというわけではなく、個を取り巻く対人関係や社会環境、地球環境など、複合的かつ総合的視点からのアプローチと考察・対処が必要であるということです。人間の身体の不調・症状には必ず意味があり、それをやみくもに排除するだけではなく、自分、ひいては社会や地球全体への「警告」であることに気づくことが肝要だと考えます。財団附属病院では、西洋医学を基盤とした統合医療・ホリスティック医療を患者さんに施し、自然治癒力を最大限に引き出すことを目的に、患者さんのこころの持ち方や生活習慣を変え、心身の健康を回復・増進させる取り組みを行っています。



【メディポリス医学研究財団附属病院で提供している医療】

さて、このところ、あちらこちらで統合医療やホリスティック医療といった言葉を耳にしますが、そもそもそれらはどのような療法なのでしょう？ 統合医療とは、患者さんにとって最適な恩恵を与え得る医療の提供を目的として、今日の医療の中心となっている現代西洋医学のシステムや方法論に加えて、補完代替医療のシステムや方法論を積極的に取り入れて、統合的な治療・ケアを行っていく医療のことです。また、治療のみならず、幅広い健康増進や疾病予防の概念を取り入れ、ライフスタイルのすべての側面を含む人間の全体（身体性・精神性・霊性）を対象とする治癒指向の医療でもあります。統合医療の提唱者は、米国アリゾナ大学医学校教授のアンドルー・ワイル博士です。ワイル博士は、「機会さえ与えられれば、身体は自発的治癒力を発揮する」という前提に基づいて、費用対効果の高い新しい治療法を身につけた医師を養成し、代替療法の科学的な研究を行い、有効な代替療法と効果のない悪徳療法との鑑別システムを確立し、附属のクリニックで成果を実践に移すという統合医療プログラムをアリゾナ大学で行っています。この取り組みは、アリゾナ大学のみならず、既に全米の6割以上の大学医学校において、卒業後の課外講座として補完代替医療や統合医療の講座が開設されているそうです。附属医院の原田 美佳子院長は、2005年から2年間、ワイル博士のもとで研鑽を積み、日本では数少ないアリゾナ大学統合医療アソシエイトフェローの一人であります。

「ホリスティック（Holistic）」という言葉は、ギリシャ語のHolos（全体）を語源としており、南アフリカ共和国の首相を務めたこともあるヤン・クリスチャン・スマッツという政治家・思想家が、その著『ホリズムと進化』の中で用いた造語です。人間の生を「いのちの営み」として、ありのまま全体を見つめ、不完全さや限界、不足や欠落などもすべて包含して認め尊重するという考え方に基いて構築されています。ホリスティック医療は、治療・健康に演繹的にアプローチし、統合医療は帰納的アプローチを試みるという違いはありますが、根本的には、患者さんが本来的に有する自然治癒力に重きを置き、患者さん本位の治療を施していこうとする姿勢において共通しています。



【離島へき地医療フォーラム】



【和吐ビック・ワールド in 鹿児島】



【坐禅断食会】



【心理ワークショップ】

附属医院で行っている統合医療・ホリスティック医療の一部をご紹介します。

ホメオパシーは、18世紀のドイツ人医師サミュエル・ハーネマン博士によって体系づけられました。同種療法あるいは類似療法と訳されるとおり、「症状を起こすものは、症状を取り去るものになる」という「Law of Similars



【ホメオパシー】

（似たものの法則）」に則り、症状を抑圧するのではなく、症状を出し切って治癒に結びつけるという治療法です。具体的には、症状を起こす原物質等を極限まで希釈し振盪させた液体を小さな粒状の砂糖玉（レメディー）にしみ込ませ、それを舌下で溶かして体内に取り入れます。症状の引き金となる物質と類似のレメディーを摂ることで、症状とレメディーが共鳴し、人間に本来的に備わっている自然治癒力が増幅され、治癒の過程が促進されるのです。

バッチフラワーレメディーは、こころの平穏を取り戻したり、否定的な感情に対処するための癒しのシステムです。英国人医師エドワード・バッチ博士によって編み出されました。バッチ博士は、野生植物に人間のこころや感情を癒す不思議な力があることに着目し、長年の研究の末、38種のフラワーエッセンス（バッチフラワーレメディー）を完成させました。植物が有する波動（エネルギー）が感情に作用し、こころの歪みを整えてバランスを取り戻すことにより、自然治癒力が呼び起こされて心身の健康をもたらします。この他にも、坐禅断食会、^{もんこう} 聞香の会など、さまざまな取り組みが実施されています。

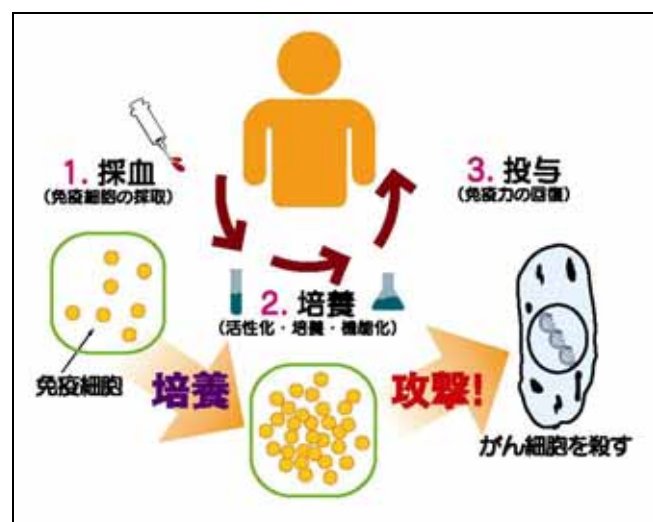
附属医院で実施されているがん温熱療法とは、ラジオ波という高周波を体外から当てることにより、正常細胞に比べ熱に弱いがん細胞を42～43℃に温め、縮小させることを狙った療法です。治療は1回40分、週1回のペースで行います。副作用もほとんどなく、脳・眼球以外のほぼすべての部位のがんに適用できます。手術・放射線治療・化学療法や免疫細胞療法などと組み合わせることにより治療の相乗効果も期待できます。附属医院には、鹿児島県下の導入実績が2台という希少ながんの温熱治療装置「高周波ハイパーサーミア」が設置されています。

また、患者さん自身の免疫細胞を特殊な技術で体外培養して免疫力を高め、体内の異常細胞を排除していく、免疫細胞療法を実施しています。免疫細胞療法は、副作用がほとんどなく、外来での治療が可能で、QOL（生活の質）の改善、がん転移・再発の予防、痛みの緩和、化学療法の副作用軽減などが期待できます。他にも大量ビタミンC療法、サイモントン療法などのがん治療にも取り組んでいます。

附属医院には、ゆったりとした入院施設・全 19 床を備え、ご家族の方も患者さんと一緒に宿泊することができる眺望の良い個室も 9 床完備しています。



【がん温熱療法：高周波ハイパーサーミア】



【免疫細胞療法】



【一般病室】



【個室】

メディボリス医学研究財団
がん粒子線治療研究センター



【がん粒子線治療研究センター】

ところで、がんの粒子線治療とは放射線治療の一種です。通常がん治療に利用される放射線は「光子線」と「粒子線」に大別され、「光子線」とは従来の放射線治療に用いられる X 線やガンマ線で、光の波を利用した治療法です。粒子線は水素の原子核である陽子（プロトン）やメタンガスから取り出した炭素イオンの粒子を、磁場を利用した加速器（シンクロトロン）でほぼ光速まで加速し、がん病巣に狙いを定めて粒子のビームを照射する治療法です。



【加速器・シンクロトロン】

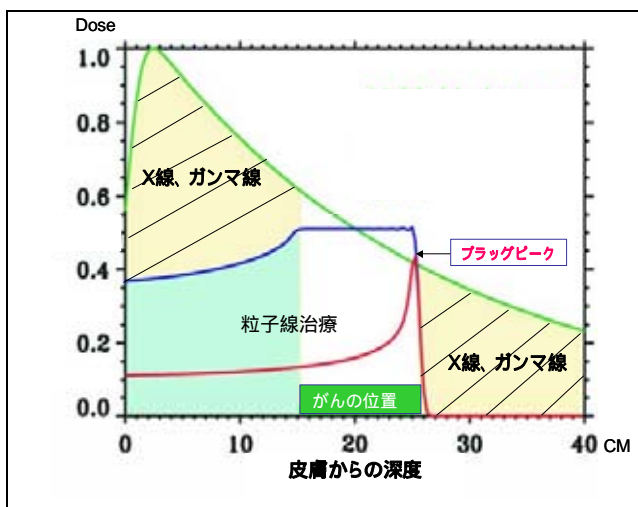


【東側病室からの景観】



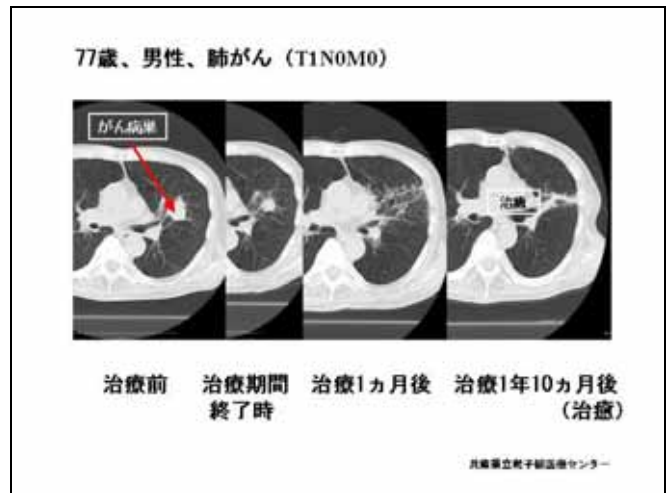
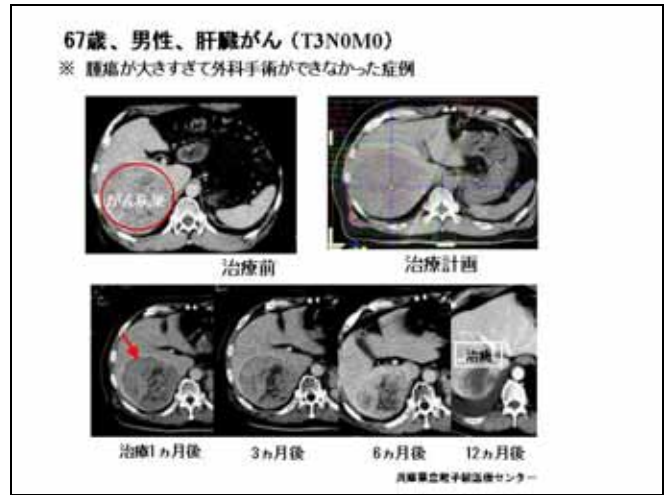
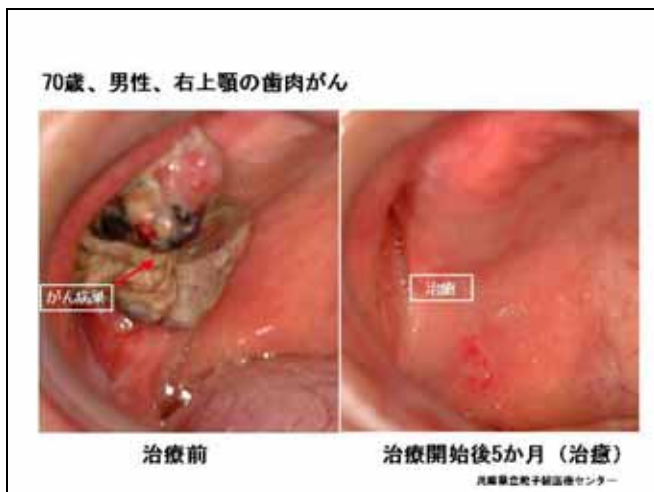
【陽子線治療室】

「がん粒子線治療研究センター」では陽子線を採用しておりますので、陽子線についてご説明いたします。従来のX線での放射線治療の場合、X線は体内に入った時点から徐々にエネルギーを減衰させながら身体を透過していきます。身体の深部にがん病巣がある場合、患部に到達するまでにX線の線量が弱くなるため、より強い線量を身体の表面に照射する必要があります。そのため、正常な組織に与える影響が大きくなったり、過剰照射による副作用を誘引する可能性もあります。一方、陽子線は、「ブラッグピーク」と呼ばれる線量を集中させる特性を持っています。体内に陽子を照射すると一定距離を進んだ時点で放射線量を一気にピークまで放出します。その距離を調節できることから、正常組織に与える影響を最小限にし、がん細胞のみに局限してエネルギーを集中させて治療を行うことが可能です。また、ピーク後は、ほぼすべてのエネルギーが滅失するため、がん病巣後部の正常組織に影響を及ぼすことはほとんどありません。



【線量分布の違い】

粒子線治療は、治療時間が1回15分程度とたいへん短く、普段同様の日常生活を続けながら治療が可能です。副作用が少なく、手術のように局所効果がありながら、身体への負荷が極めて少ない治療法として注目を集めています。また、身体に与える影響がとても少ないことから治療後の社会復帰に時間がかからないのも特徴です。これまで前立腺がん、肺がん、肝臓がん、食道がん、子宮がん、骨軟部腫瘍、頭頸部がんなど多くの症例で高い治療効果が確認されています。



一方、近年になり、乳がん罹患する女性の若年化傾向が顕著に進み、がん罹患率ではトップとなっているにもかかわらず、検診率は依然として少ないのが現状です。乳がん治療に粒子線治療が導入できれば、患部にメスを入れることなく治癒が望めるため、患者さんのQOL (Quality of Life = 生活の質) が向上するとともに、乳がん検診の受診率向上にも貢献できるものと考えています。当財団では、すでに「乳がん粒子線治療研究会」を立ち上げ、臨床試験計画を策定中であり、着々と臨床応用への準備を整えています。近い将来、切らずに乳がんを治せる日が到来すると確信しています。

【乳がん粒子線治療研究会】

代表	光山 昌珠	北九州市立医療センター 院長
世話人	愛甲 孝	鹿児島大学医歯学教育開発センター 教授
	菱川 良夫	兵庫県立粒子線医療センター 院長
	園田 勝男	鹿児島県医師会 副会長
	丸山 征郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授
	中條 政敬	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授
	西村 令喜	熊本市立熊本市市民病院 診療部長 (乳腺内分泌外科)
	吉中 平次	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院手術部 診療教授
梅北 善久	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 准教授	
	永田 良一	メディボリス医学研究財団 理事長
監事	上山 幸正	上山法律事務所 弁護士
	花田 強志	花田強志税理士事務所 税理士
顧問	福田 護	聖マリアンナ医科大学附属研究所 プレスト& イメージング先端医療センター附属クリニック 院長
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学放射線医学講座 教授

(敬称略、順不同、役職名等は2008年7月時点)

一般の方にも、意外なことに医療従事者にも、十全に知られていなかった粒子線治療を普及・啓発するために、九州各県の医師会への訪問に同行していただいた前・鹿児島県医師会会長、当財団名誉理事の、米盛 學 先生と、メディポリス医学研究財団が主催する「粒子線治療市民公開講座」にほぼ毎回のよう講師としてご協力をいただいた前・兵庫県立粒子線医療センター院長、当がん粒子線治療研究センター長の菱川 良夫 先生には、多大なるお力添えを頂戴し、言葉には言い表せないほどの深い感謝の意を捧げたいと存じます。

【粒子線治療講演会「21世紀のがん治療」市民公開講座一覧】

開催日	場所	会場
2007年09月15日	鹿児島市	宝山ホール
2007年10月13日	鹿屋市	鹿屋商工会議所
2007年10月27日	奄美市	名瀬公民館
2007年11月03日	鹿児島市	鹿児島市青少年会館
2007年12月08日	指宿市	メディポリス指宿
2008年04月19日	川内市	川内文化ホール
2008年08月09日	霧島市	鹿児島県人材
2008年12月13日	都城市	都城市ウエルネス交流
2009年02月07日	人吉市	カルチャーハウス
2009年04月11日	出水市	出水市音楽ホール
2009年06月20日	加治木町	加治木町文化ホール
2009年06月27日	加治木町	加治木町文化ホール
2009年08月02日	鹿児島市	鹿児島市民文化ホール
2009年09月19日	宮崎市	宮崎県立芸術劇場
2009年10月17日	南さつま市	総合保健福祉センター
2009年10月31日	福岡市	福岡市民会館
2009年11月07日	佐賀市	佐賀市民会館
2009年11月28日	西之表市	西之表市民会館
2010年01月17日	始良町	始良町中央公民館
2010年02月06日	鹿屋市	リナシティ鹿屋
2010年02月13日	熊本市	熊本県立劇場
2010年03月13日	長崎市	長崎ブリックホール 国際会議場

現時点で稼働している粒子線治療施設は国内で7箇所ありますが、そのほとんどが本州中央部に集中しているため、九州エリアのがん患者さんが粒子線治療を受けるためには、遠方まで足を運ばなければなりません。「がん粒子線治療研究センター」の開業に伴い、地元である鹿児島県民のみならず、九州全県、さらにはアジアを中心とする海外のがん患者さんにとって、より身近なところで粒子線治療を受けられるようになり、がん患者さんの治療の選択肢が増えることとなります。



来年 2011 年の春には九州新幹線が全線開通します。これにより、九州他県からの鹿児島への移動時間が短縮され、交通アクセスも飛躍的に向上します。併せて、経済産業省が現在進めているメディカルツーリズム構想もガイドラインが示され、海外の患者さんが日本で先進医療を受ける環境も整備されつつあります。こうした外部環境要因の変化との相乗効果も期待され、「がん粒子線治療研究センター」は、広大な敷地に息づく豊かな自然と温泉資源、整備された運動施設、長期滞在型施設「天珠の館」などを有する総合的な医療・健康都市『メディポリス指宿』の中核施設として、日本という枠を超えた国際的な先進医療提供施設となり得ると考えています。また、『メディポリス指宿』が本格稼働することによって、広域からの患者さんの来訪やヘルスツーリズムと連動した観光、それらに伴う新たな設備投資や雇用の創出を促進し、この指宿地区の地域経済の活性化に少しでもお役に立てることを願ってやみません。

今、思い起こしますと、新日本科学が、旧「グリーンピア指宿」跡地を公募入札で落札した 2004 年 7 月以来、5 年 9 ヶ月の歳月が過ぎました。5 年 9 ヶ月といえますと、2,000 日に相当します。この 2,000 日の間、他の複数の仕事に携わりながらも、『メディポリス指宿』事業のことは、片時たりとも私の脳裏を離れませんでした。「どうすれば、人のため、社会のためにより役立つ施設になるだろうか？」寝ても覚めても、この命題が頭の中に浮かんできました。出張時や、別の業務に従事しているときも、ふとした弾みに、「あっ、これはメディポリスに応用できるぞ！」と、何でも『メディポリス指宿』に結びつけてしまうのです。その意味では、「メディポリス潰け」の 2,000 日であったと思います。仏教では、不忘念（ふもうねん）という教えがあります。これは、常にこころの中で自分が信じている一念を、いつときたりともこころから離れないように念じ続ける、そうすると願いがかなうというものです。まさに、この 2,000 日の間、私は不忘念（ふもうねん）を貫いてきました。この間、数々の試練や難題に直面し、紆余曲折もありました。しかし、本日、「がん粒子線治療研究センター」の完成にまで漕ぎつけられたのは、メディポリス構想に賛同し、さまざまな形でお力添えをいただいた関係各位のご支援ご協力の賜物であり、この場をお借りして、厚く厚く御礼を申し上げます。

『メディポリス指宿』構想はこれで完了したわけではありません。多くの方々の健康で幸せな人生に貢献できるのであれば、新たな取り組みにも積極的に着手し、常に進化する医療・健康都市であり続けたいと考えています。

「がん粒子線治療研究センター」落成の良き日を迎え、職員一同、決意を新たにするとともに、今後とも皆様のご支援ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願いを申しあげる次第でございます。

合掌

2010 年 4 月 3 日

医療・健康都市『メディポリス指宿』および
「財団法人メディポリス医学研究財団」の
あゆみ

昭和 60 (1985) 年	4 月	・「グリーンピア指宿」オープン。	平成 20 (2008) 年	1 月	・鹿児島純心女子大学にて粒子線治療講演会開催。
平成 12 (2000) 年	3 月	・「年金福祉事業団の解散及び業務の承継等に関する法律」が定められ、年金運用基金がグリーンピアの譲渡を行なうことが決定。		3 月	・がん粒子線治療研究センター・実施設計策定完了。
平成 13 (2001) 年	12 月	・閣議において、「平成 17 年度までに廃止、特に赤字施設についてはできるだけ早期に廃止する」ことが決定。 ・平成 14 年 5 月の廃止が決定し、年金資金運用基金より、鹿児島県と指宿市にグリーンピア指宿の引き受けが打診されるが不成立。		4 月	・「粒子線治療市民公開講座」を薩摩川内市で開催。以降、霧島市 8 月、都城市 12 月開催。
平成 14 (2002) 年	5 月	・「グリーンピア指宿」営業停止。		5 月	・粒子線治療装置の売買契約締結。
	6 月	・入札実施。(地元ホテル 1 社が参加、最低価格を下回り不落) ・指宿市が施設を取得し、企業に貸与するプランで検討を開始。		7 月	・乳がん粒子線治療研究会開催。(兵庫県立粒子線医療センター) ・がん粒子線治療研究センター起工式開催。
平成 16 (2004) 年	3 月	・指宿市がグリーンピア施設直接取得を断念。		9 月	・附属病院においてがん温熱療法「ハイパーサーミア」開始。
	4 月	・公募入札現地説明会。(6 業者が参加)		10 月	・NPO 法人がんセンターリボンズ メディポリスプランチ開所式。 ・指宿市 奨励金 交付実施。
	7 月	・新日本科学が旧グリーンピア指宿を 6 億円で落札。 ・「予防医学」、「医療向上」、「薬理学」を研究の柱として、施設の活用についての協議会の設立することをプレスリリース。		11 月	・カール・サイモントン先生をお招きして予防医学セミナー開催。(鹿児島県医師会館)
	8 月	・「活用協議会」発足。予防医学、先端医療、こころのケア、新薬開発(トランスジェネレーション)の 4 分野が提案される。高度先進医療分野に粒子線治療が浮上する。	平成 21 (2009) 年	2 月	・「粒子線治療市民公開講座」を人吉市で開催。
	12 月	・年金基金から施設が新日本科学に譲渡される。 ・指宿市の広報誌「広報いぶすき」1 月号及び指宿市 HP において、名称を公募。		3 月	・文部科学省 放射線利用・原子力基盤技術試験研究推進交付金交付実施。 ・鹿児島県 鹿児島県放射線利用試験研究等事業補助金交付実施。 ・地域総合整備資金 融資実施。 ・鹿児島県がん粒子線治療研究センター等整備資金 融資実施。
平成 17 (2005) 年	3 月	・「旧グリーンピア指宿」活用会議ワーキンググループにおいて、名称を『メディポリス指宿』と決定。		4 月	・「粒子線治療市民公開講座」を出水市で開催。 ・シンジケートローン契約締結 調印式を実施。
平成 18 (2006) 年	3 月	・財団法人メディポリス医学研究財団設立。		6 月	・「粒子線治療市民公開講座」を加治木町にて開催。
	4 月	・「がん粒子線治療研究センター整備事前調査」予算：5 千万円(国庫)内容：線種の検討、事業の円滑性等の調査。		7 月	・がん粒子線治療研究センター粒子線治療装置据付工事開始に伴う「安全祈願祭」実施。
平成 19 (2007) 年	2 月	・『メディポリス指宿』構想を新聞にて広告。		8 月	・「粒子線治療市民公開講座」を鹿児島市民文化ホールで開催。8 月 2 日(日曜日)2000 名規模。
	4 月	・「がん粒子線治療研究センター整備支援事業」予算：1 億円(国庫)内容：基本設計、実施設計の策定。		9 月	・「粒子線治療市民公開講座」を宮崎市にて開催。
	6 月	・メディポリス医学研究財団附属病院開所式。新日本科学は、宿泊棟を全面改装、「天珠の館」と称して、宿泊事業を開始。 ・「がん粒子線治療研究センター」装置・建物基本設計に係わる業者プレゼンテーション実施。		10 月	・「粒子線治療市民公開講座」を南さつま市、福岡市にて開催。 ・がん粒子線治療研究センター上棟式実施。
	8 月	・乳がん粒子線治療研究会設立準備委員会を立ち上げ、10 月、12 月に準備委員会を開催し、平成 20 年度より研究会設置とすることで決定。		11 月	・「粒子線治療市民公開講座」を佐賀市、西之表市にて開催。
	9 月	・「がん粒子線治療研究センター」区域の土地開発造成に着工。 ・「粒子線治療市民公開講座」を鹿児島市で開催。以降、鹿屋市 10 月、奄美市 10 月、鹿児島市 11 月、指宿市 12 月開催。	平成 22 (2010) 年	1 月	・「粒子線治療市民公開講座」を始良町で開催。
	10 月	・特定公益増進法人 鹿児島県より認定。		2 月	・「粒子線治療市民公開講座」を鹿屋市、熊本市で開催。
	11 月	・がん粒子線治療研究センター基本設計の承認、実施設計の開始。		3 月	・「粒子線治療市民公開講座」を長崎市で開催。 ・がん粒子線治療研究センター・建築機器搬入完了。 ・がん粒子線治療研究センター・機器調整完了。
				4 月	・4 月 3 日(土曜日)がん粒子線治療研究センター落成式。(施設見学等) ・「粒子線治療市民公開講座」を大分市、福岡市で開催予定。
				5 月	・「粒子線治療市民公開講座」を沖永良部で開催予定。
				6 月	・「粒子線治療市民公開講座」を延岡市、北九州市で開催予定。
				7 月	・「粒子線治療市民公開講座」を鹿児島市で開催予定。
				9 月	・「粒子線治療市民公開講座」を都城市で開催予定。
				10 月	・「粒子線治療市民公開講座」を宮崎市で開催予定。
				11 月	・「粒子線治療市民公開講座」を久留米市、指宿市で開催予定。
			平成 23 (2011) 年	1 月	・「粒子線治療市民公開講座」を熊本市で開催予定。
				3 月	・「粒子線治療市民公開講座」を大分市で開催予定。
				4 月	・がん粒子線治療研究センター・稼働開始予定。 (2010 年 4 月 3 日現在)